

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福岡高等技術専門学校	階数	地上5F
建設地	福岡県福岡市東区千早4丁目24番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,750 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年3月25日
敷地面積	7,870 m ²	作成者	〇〇〇
建築面積	3,651 m ²	確認日	2016年3月25日
延床面積	10,719 m ²	確認者	〇〇〇

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある階高の実習場 ・将来の更新を見越した設備スペースの確保 ・周辺地域への顔づくり 	その他 <ul style="list-style-type: none"> ・記念植樹の保存 ・PRC梁の採用により合理的な大スパン構造を実現
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・実習棟は設備を見せるデザインとし、教材としても利用できる計画 ・本館棟は座学、事務作業に適した室内環境 ・水平庇・構造躯体のアウトフレームによる日射遮蔽 	Q2 サービス性能 <ul style="list-style-type: none"> ・座学と実習を行き来する訓練スタイルに配慮した平面計画 ・見学スペースや作品展示スペースを設置 ・実習場内は天井走行クレーンの設置や実習内容に配慮
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・LED照明を採用 ・太陽光発電を採用 ・複層ガラスの採用 	LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県産木材の積極的利用 ・節水型機器の採用
		Q3 室外環境(敷地内) <ul style="list-style-type: none"> ・「福岡市緑の基本計画」に配慮し、敷地面積の15~20%程度の緑化を目標とする。 ・本館棟前面は小舗石舗装とし、エントランス空間の顔づくりの一部とする。
		LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> ・敷地外周部は植栽帯+フェンスにより周辺景観への配慮 ・3号線への顔づくりとして西側バルコニー外壁部に県産杉を採用 ・隣地に対し訓練騒音対策として北側に防音フェンスを

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される